

(四枚のうち一)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

□ 次の問一〜問四に答えなさい。

問一 次のア〜コの語の読み方を、それぞれ平仮名で書きなさい。

- ア 出師表                      イ 三十帖策子                      ウ 温彦博碑                      エ 歙州硯                      オ 黄州寒食詩卷
- カ 淳化閣帖                      キ 安徽省                      ク 落款                      ケ 筋切                      コ 鼠鬚筆

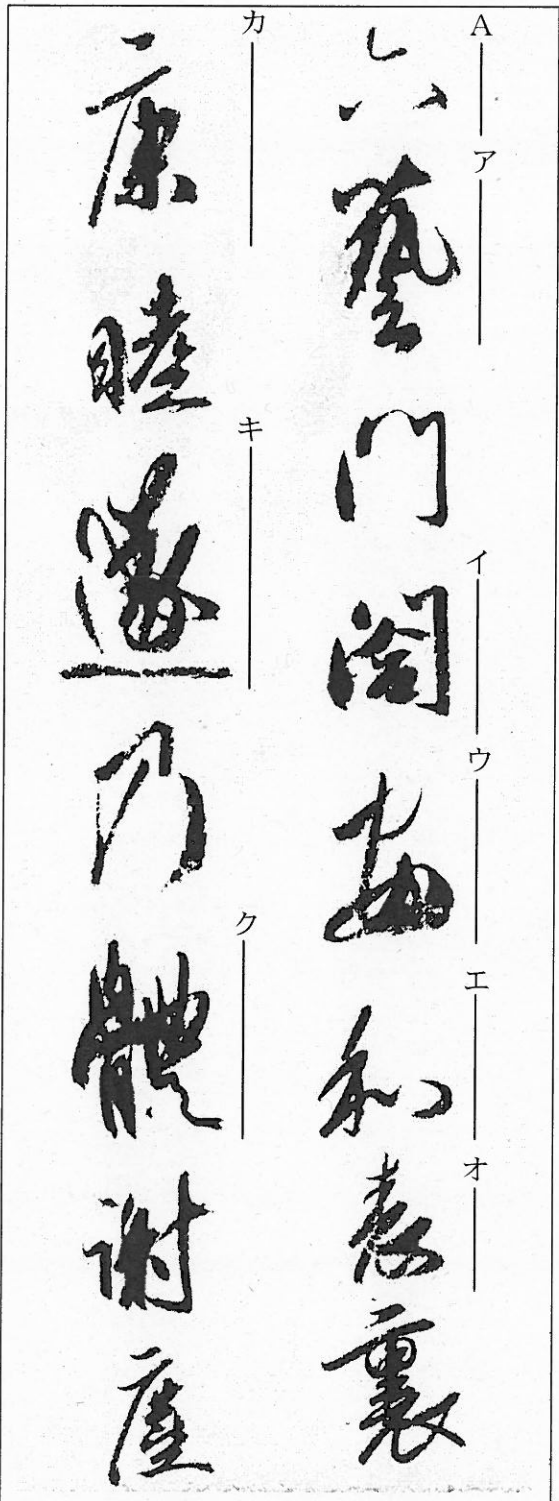
問二 次のア〜オは、書道に関連がある語です。それぞれ簡潔に説明しなさい。

- ア 千字文                      イ 双鉤填墨                      ウ 矢筈                      エ 回文                      オ 背臨

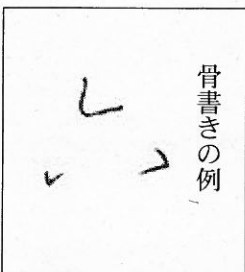
問三 次の図版①〜⑤に書かれている字を、それぞれ常用漢字で書きなさい。



問四 次の図版は、「伊都内親王願文」の二節です。臨書するにあたって、生徒が字形や筆順を理解しやすいように、傍線部ア〜クの字を、それぞれ骨書きしなさい。なお、後の骨書きの例は、図版中の傍線部Aの字を骨書きしたものです。



〔積文〕 六藝門閣安和表裏康睦遂乃體謝塵



骨書きの例

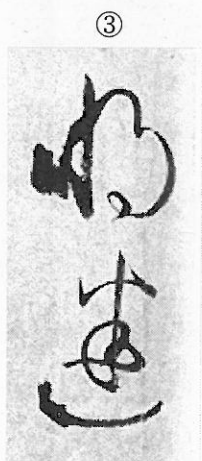
(四枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

二 次の文章は、唐の書道史について述べたものです。また、図版①～⑥は、全て唐代のもので、後の問一～問六に答えなさい。

書を好み a を酷愛した<sup>1</sup>第二代皇帝太宗のもと、初唐の三大家 b・c・d が活躍し、それぞれが<sup>2</sup>後世の模範となる格調高い楷書の名品を残した。また、六八七年には a の書法を遵守した e が、「<sup>3</sup>書譜」を書いた。第六代皇帝 f の頃になると、伝統書法を受け継ぎつつ、そこから新たな書法を打ち出す能書が現れた。その筆頭が<sup>4</sup>顔法と呼ばれる書法を築いた g である。また、同時期には「張顛素狂」と称される h・i が現れ、狂草と呼ばれる奔放な草書を書いた。



問一 文章中の a ～ i にあてはまる人物名を、それぞれ書きなさい。なお、同じ記号には、同じ人物名が入ります。

問二 傍線部1について、第二代皇帝太宗が書いた最初の行書碑は何ですか。書跡名を書きなさい。

問三 傍線部2について、「楷法の極則」と評されている書跡名を書きなさい。また、この書跡を図版①～⑥の中から選び、その記号を書きなさい。

問四 傍線部3は、この時代を代表する書論としても知られています。どのような内容が書かれていますか。簡潔に書きなさい。

問五 傍線部4について、その特徴を簡潔に書きなさい。また、顔法で書かれたものを、図版①～⑥の中から選び、その記号を書きなさい。

問六 図版①～⑥を年代の古い順に並べ、その記号を書きなさい。

(四枚のうち三)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

三 次の図版は、「高野切第三種」の一節です。後の問一〜問五に答えなさい。

少むくまのむゆふのふかき  
 のくろをまきける  
 小ぢはりのぬま  
 いづもまたくくろをなこまあけ  
 ありれうけらまけやわらむ

歌                      作者                      詞書

問一 図版に書かれた字を読み、次のア〜ウに答えなさい。

- ア 詞書から、歌を詠んだ月日を漢数字で書きなさい。
- イ 作者について、その字を、それぞれ平仮名で書きなさい。
- ウ 歌について、その字を、それぞれ平仮名で書きなさい。また、その大意を簡潔に書きなさい。

問二 「高野切」には「高野切第三種」の他に、「高野切第一種」及び「高野切第二種」があります。「高野切第一種」及び「高野切第二種」の特徴について、それぞれ簡潔に書きなさい。

問三 図版の歌を、短冊(約縦三十六cm・横六cm)に「三つ折り半字かかり」で生徒に臨書させることとします。短冊の上部を約何cmあけるよう指導しますか。最も適切なものを、次のア〜オの中から選び、記号で書きなさい。

- ア 約四cm      イ 約六cm      ウ 約九cm      エ 約十二cm      オ 約十五cm

問四 平安時代の仮名の成立について、時代背景を踏まえ、簡潔に説明しなさい。

問五 平成二十一年三月告示の高等学校学習指導要領 芸術 書道1 2 内容 A 表現 (3) 仮名の書 ウ には、「単体、連綿の技法を習得し、全体の構成を工夫すること。」と示されています。この連綿の技法をどのように指導することが重要ですか。簡潔に書きなさい。

(四枚のうち四)

受験番号

氏名

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

四 次の文章は、「筆髓論」の一節です。この文章の内容を簡潔に説明しなさい。

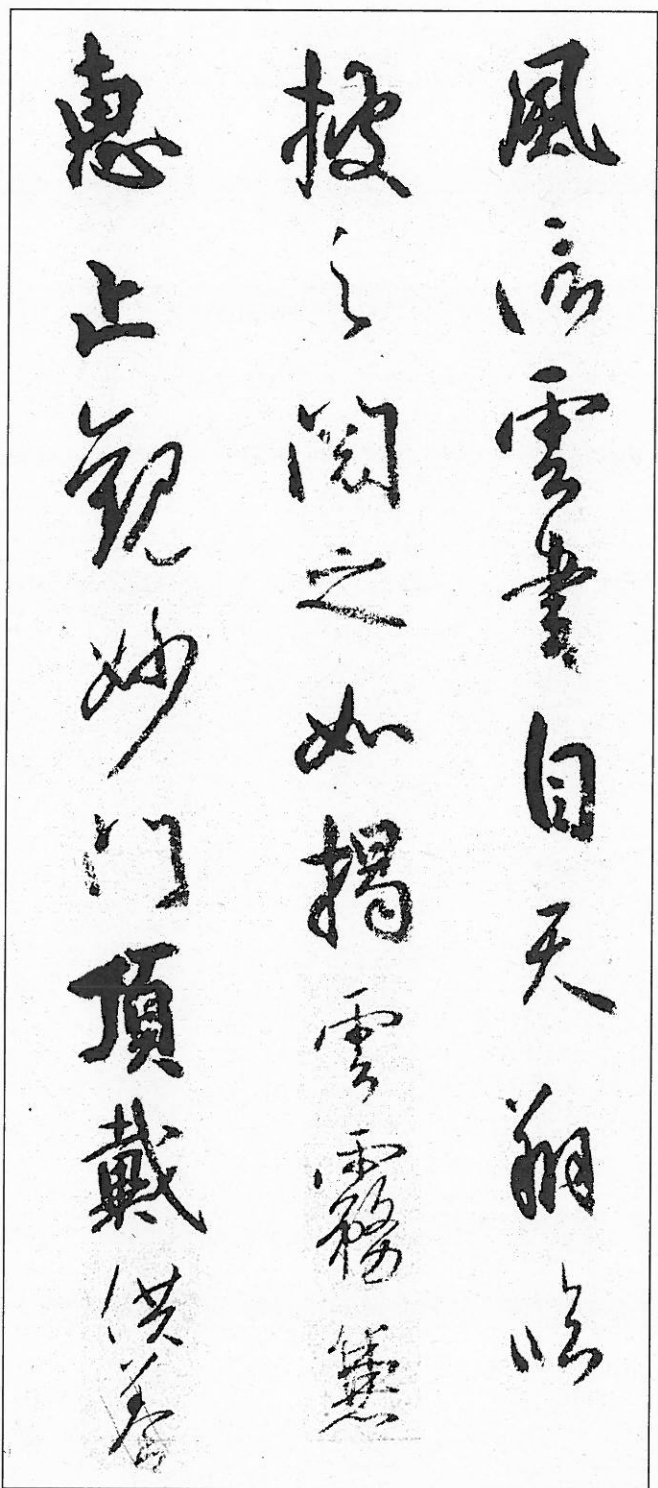
未解書意者、一點一畫、皆求象本、乃轉自取拙。豈成書邪。

五 平成二十一年三月告示の高等学校学習指導要領 芸術 書道Ⅰ 2 内容 A 表現 (1) 漢字仮名交じりの書工には、「名筆」を生かした表現を理解し、工夫すること。」と示されています。次の問一・二に答えなさい。

問一 「名筆」とは、どのような書のことをいいますか。簡潔に説明しなさい。

問二 「名筆を生かした表現を理解し、工夫すること。」について、どのようなことを指導する必要がありますか。簡潔に書きなさい。

六 次の図版を用いて、学習指導を行うこととします。行書の基本及び「蘭亭序」に続く学習として、「風信帖」を扱います。「風信帖」を扱う学習は四時間で行うこととし、ワークシートを用いて、「書への関心・意欲・態度」「書表現の構想と工夫」「創造的な書表現の技能」「鑑賞の能力」の全ての観点について、観点別評価を行うこととします。「風信帖」を扱う授業において使用するワークシートを作成しなさい。



(三枚のうち一)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号		解答欄				
一	問一	ア	イ		ウ	エ
		オ	カ		キ	ク
		ケ	コ			
	問二	ア				
		イ				
		ウ				
		エ				
		オ				
	問三	①	②	③	④	⑤
	問四	ア	イ		ウ	エ
		オ	カ		キ	ク
	問一	a	b	c	d	e
f		g	h	i		
問二						
問三	書跡名			記号		
問四						
問五	特徴			記号		
問六	→	→	→	→	→	

(三枚のうち二)


受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号		解答欄	
三	問一	ア	月 日
		イ	
	ウ	文字	
		大意	
	問二	高野切 第一種	
	問三	高野切 第二種	
問四			
四	問五		
	問一		
五	問二		

# 高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(三枚のうち三)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号	解答欄
<div data-bbox="270 1514 315 1555" style="text-align: center;">  </div>	<div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">           一年組 番氏名         </div> <p>「風信帖」 空海 平安時代</p> <p>○目標</p> <p>「風信帖」の臨書を通して、表現の多様性を理解しよう。</p>